

「(2015年インドネシア大学スプリングスクールプログラム) 参加報告書」

京都大学院農学研究科1年 (坂井 あんず)

今回のインドネシア大学 SEND プログラムでは、インドネシア語研修、日本語の統語論やインドネシアの社会などに関する授業、グループごとのプレゼンテーション、そしてインドネシア大学 (UI) の日本語学科の学生たちとの交流が主な内容でした。チューターとして日本語学科の UI 生たちが京大生についてくれて、食事や買い物、週末の観光などでは私たちを案内してくれました。

インドネシア語講座では BIPA の先生方から午前中毎日インドネシア語を教えていただきました。研修前は語学について少し不安を感じていたのですが、京大で1週間留学生の方からインドネシア語を教えてもらっていたこともあり、スムーズに慣れることができました。簡単なあいさつ、数字、位置、買い物での会話などを教わりましたが、会話やゲームが盛り込まれた授業で、とても楽しく学ぶことが出来ました。また授業以外でも、UI 生に単語や日常会話をたくさん教えてもらいました。しだいに多くのことを簡単なインドネシア語で表現できるようになっていき、成果が感じられたのでとても嬉しかったです。

語学以外では日本語学科の授業を受講しました。私が最も興味深いと感じたのはインドネシアの現在の課題についての授業でした。その中でも印象的だったのが、インドネシアでは現在宗教に対してリベラル化と保守化が混在しているというお話です。このように宗教について考えることは授業でも授業以外でも多々ありましたが、宗教が日常生活に深く根付いているという点で日本とのギャップに驚くことは研修中たくさんありました。

次にプレゼンテーションでは、私たちのグループは「日本とインドネシアの住居」について取り組みました。お互いの国の住居の歴史と特徴的な建物を紹介するという内容であったため、UI 生と議論をするということはあまりなかったのですが、発表の後に先生方からもっと内容を掘り下げ日本とインドネシアとを形式的ではなく実質的に比較してもらいたかったという意見をいただきました。反省点として、観点を絞りもっと比較・検討に重きを置いて議論をするべきだったかなと思います。しかし4人で協力してプレゼンテーションを作り上げることができたので、その点は良かったです。また、ジャワ島の伝統的な家屋 joglo については初めて知ったのですが、構造、用途ともにとっても面白いなと思いました。

私は SEND プログラムに応募した大きな動機として、現地の方々と交流したいという気持ちがありました。今まで何度か観光では海外に行くことはあったのですが、現地の方と交流するという機会があまりなかったからです。今回プログラムに参加させていただき、たくさんの学生さん、先生方とお話することができました。その中で新たな発見や改めて気付くことなども多くあり、とても貴重な体験となりました。また、食堂や学校の外などではインドネシア語で話しかけたり道を聞いたりすることもあったのですが、現地の言葉でコミュニケーションが取れるととても楽しく、語学の重要性を強く実感しました。今後英語はもちろんインドネシア語の勉強も続け、次回訪れたときには現地の方とスムーズに会話ができるようになっていたいなと思いました。